

令和7年度第1回「防府市農林業政策懇話会」 議事録等

■開催日時・場所

令和7年10月28日（火）午後3時00分から午後4時40分まで
防府市文化センター（防府市役所本館8階）

■次第

- 1 農林業関係事業について
 - (1) 第6次防府市総合計画の素案について
 - (2) 令和7年度農林業関係事業における進捗状況について
- 2 防府市の農林業の活性化に向けた意見交換

■配付資料

	資料名
1	第6次防府市総合計画（素案）
2	令和7年度農林業関係事業 進捗状況
3	未来へつなぐ土地利用型農業の推進

■委員等出席者名簿

敬称略・順不同

種別	氏名	所属／品目	出欠
会長	池田 豊	防府市長	出
農林業関係団体	石丸 和美	山口県農業協同組合防府とくぢ統括本部 本部長	出
	渡邊 浩信	山口県中央森林組合 組合長	出
	藤井 伸昌	防府市農業委員会 会長	出
農業関係者	岡本 拓実	水稻・麦	出
	池田 英雄	畜産	出
	原田 慎司	露地野菜	出
農林業の知と技の拠点	柳井 寧	山口県農林総合技術センター 企画戦略部 部長	出
やまぐち農林振興公社	沖 敏雄	担い手・新事業支援部 部長	出
商工業団体	松田 和彦	防府商工会議所 専務理事	出
流通関係団体	松原 正範	株式会社丸久 青果部長	出
観光関係団体	中谷 泰	(一社) 防府観光コンベンション協会 会長	出
その他関係団体	阿部 幹恵	防府市生活改善実行グループ連絡協議会 会長	出
公募	熊安 悅子		出
	山本 友花		出

■会議録

1 主要事業等に関する情報提供

・農林業関係事業について

第6次防府市総合計画の素案及び令和7年度農林業関係事業における進捗状況について、事務局から資料説明。

2 各委員による意見

会長 委員の皆さんから御意見をいただきたい。

A委員 農業大学校の状況について報告する。令和8年度の推薦入試を実施し、25人の方が合格をされている。今後、一般入試を実施する。令和6年・7年度は、定員40人に対して、ともに21人という状況であった。令和8年度は過去2年と比較し、入学者数が増えるのではないかと受けとめている。

また、10月18日にオープンキャンパスを開催。昨年より7名多い18名の高校1・2年生が参加した。令和9年度に向けて、学生が増えるのではないかと受けとめている。

令和6年度の農大卒業生が1名、市農業公社に就業されているので報告する。

県としても、農業の担い手確保・育成は大きな課題であるので、防府市と一緒にしっかりと取り組んでいきたい。

会長 土地利用型農業推進プロジェクトはスタートしたばかりである。研修を重ね、将来的には営農法人等に就職していただく。これを繰り返していくことで、新規就農対策、耕作放棄地対策も進むと思うので、引き続き御指導賜りたい。

B委員 米の作況状況について、市の説明に補足する。

今年度は、収量品質ともに昨年より良い結果である。台風被害も、病害虫もほとんどなかった。若干、稲の倒伏があったが、影響はなかった。管内の1等米の比率は10月24日現在で76.13%。昨年は、1等米が56%であったので、かなり良質な米ができたということである。これは、高温耐性品種への切換えがうまくいったのではないかと推測される。

また、集荷状況は、事前出荷の予約が30kgの袋で9万6560袋あり、10月24日現在で、出荷数量7万2853袋、集荷率75.45%と、集荷率はかなり良いと思う。

価格は、JAの概算金で、コシヒカリの1等米が60kg(1俵)あたり2万5,500円で前年より9,000円程度値段が高くなっている。

消費者の販売価格は、新米については、4,000円から5,000円程度で高止まりしている。ただし、主食米の作付けが、昨年よりかなり増えているので、今後、米が

余る可能性もあり、11月下旬ぐらいまで、動向を注視していく必要があると思う。

農福連携については、JAグループの支援事業、防府市の農福連携促進事業を活用しながら、防府市や関係機関と連携して進めていきたい。なお、令和5年度は3件、昨年度は2件、令和7年度は、現在3件、協議をして進めている。

ジャンボタニシについては、大道と奈美地区において、市と連携しながら対策を検討している。この結果を踏まえて、協議検討しながら、ジャンボタニシの軽減に努めていきたい。

土地利用型農業推進プロジェクトについては、昨年締結された、地域農業の担い手育成に向けた連携協定をもとに、できる限りの協力をていきたい。特に、農業公社が研修ほ場で作った地元産の米を、学校給食すべてに届けるためには、約100tいると聞いている。これを全量作れるよう、関連事業者と一緒にになって進めていきたい。

会長

農福連携については、市でも力を入れている。農業公社でも、新たな形で農福連携できなかと考えているので協力をお願いする。

また、ジャンボタニシについては、今年度から市でも助成をさせていただいているが、地域全体で取り組まなければ、効果があまりないのではないかと思っている。これから、効果を検証しながら、しっかりと取り組んでいきたい。

土地利用型農業もほ場整備と併せてしっかりと進めていく。

C委員

農業公社は、今年1.5haの作付けを行った。最終的には学校給食を全量賄う20haの農地が必要。現在は、華城の植松地区で栽培している。

今後も今の研修用ほ場周辺で面積を増やしたいが、20haを賄うためには、他の地域を探さなければならない状況である。

地域計画において、担い手がいない農地が3割残っていると聞いている。その3割を中心に、規模を拡大していきたいと思っているので協力をお願いする。

会長

地域計画で、担い手が決まってない農地が3割ある。その3割がさらに減るように市としても取り組んでいきたい。

D委員

学校給食米の無償提供についてお聞きしたい。

また、防府や山口県で、防府産のものを全て消費できればよいが、飽和状態のような感じがする。防府産のものを県外でPRできないかと思う。せっかく良いものができても、それを売る場所がなかつたら残念だと思う。

会長

農業公社で作った米は、学校給食に無償で提供される。それにより、物価高騰の中でも、学校の給食費を上げる必要がなく、その浮いた分で、デザートの日を作っていく。それにより、楽しく学校に行ってもらえば、不登校等の解消に少しは役に立つと思う。

P Rについては、皆さん、地産地消ということでも取り組まれている。新鮮野菜地産地消というのは、少し高くても新鮮なものを食べようと、安全安心ということでスタートしたので、県や農協と一緒にやって取り組んでいきたい。

E 委員

5年前に集落営農法人を継ぎ、稲作をしている。そこで、今、1人で約15haのお米を作っているが、大変厳しい状態。通年で仕事がなく、賃金のこともあり、人の雇用も難しい。ほ場整備をした後には、今の面積の3倍ぐらいの面積を受け持つようになるが、人を育てようと思っても、今の状態では人を雇うことができない。面積が広がるの嬉しいが、広がったときに、どのように進めていくのかという不安が常にある。

また、面積が増えたら、設備も今のものではできない。機械も1,000万円を超えるものも多く、なかなか買うこともできない。融資等を考えるが、米価も先が読めず、踏み出せないところがある。そういうところを市や県に何か応援していただければ嬉しいと思う。

会長

上右田が来年度ぐらいから、ほ場整備に着手できるのではないかと思っている。

今、新規就農対策として、農業公社で、地域おこし協力隊や農大卒業生を研修している。いずれは市内の営農法人等に雇用してもらいたい。ほ場整備を進めて、土地を集約してもらい、農業公社で研修した人を雇ってもらうのが理想。防府市ではいろいろな地域でほ場整備の計画がある。それを進めて、そこで法人を設立し、雇用してもらうことで耕作放棄地対策にもなる。こうした効率的な施策を講じていきたい。

F 委員

青果市場の移転について、流通において、人手不足の中、効率的に作業を進めていくには、拠点化するというのは非常に重要。防府市は東側に運送会社が多い。流通業者の人手不足や規制が厳しくなる中、潮彩市場を流通の拠点とするのは、効率的。拠点づくりを早急に進めていただきたい。

野菜等のロスを出さないという点でも、青果市場と潮彩市場が隣接しているというの非常にメリットがあると思う。できたものがきちんと流通されることは、農家にとっても収益につながる。

人を育てるという部分も含めた好循環が、5次計画からできあがってきているので、それを進めていっていただきたい。

会長

青果市場の移転については、産業戦略の懇話会でも、様々な意見をいただいている。県の農林業の拠点に対応する形で、潮彩一体について市場を基本にした販売もできる農林水産の拠点にしていければよいと思っている。

現在パブリックコメント中であるが、できるだけ早期に進めていきたいと思うので、協力を願いとする。

G 委員

私は店を経営しているが、アルバイトの時給が一気に上がり、アルバイトの雇用が厳し

い中、DX化を活用し、人件費を抑えている。

農業は、長い間同じ作業をしてきて、変革を起こしづらい業種ではあると思うが、何かをどこかで変えていかないと、利益率はしぼんでいく。

スマート農機の導入など、生産者の方が何を一番求めているか、活用することで、生産性が上がって、経営が安定して、労力も抑えられるというものがあれば、市の方へ提案していただければと思う。

H委員

今年、集落営農法人連合体形成加速化事業を活用し、スマート農機（オートステアリング付きブームスプレヤー）を入れ、ロスの削減にチャレンジする。また、一昨年くらいから乾田直播も実施している。なかなか上手くいかなかったが、今年は随分向上した。

G委員

県の資料を見ると、DXを導入されているところが600件近いが、導入されているのは大規模な生産者。小さい生産者の方でも使えるように、市から支援があるとよい。

会長

また参考にさせていただきたい。

I委員

私の地域でも、ほ場整備の計画があり、令和10年採択に向けて取り組んでいるが、現状は、ほ場の形が悪い、小さいなどで、条件が悪く、厳しい状況が確かにある。同じ農業者として連携を取りながら、協力できるところは協力していきたい。

他市町の話を聞くと、防府市は地域計画やほ場整備が進んでいると実感するし、他市町にはない新規就農者支援施策もあるが、新規就農者が特別多いということもない。今後、ほ場が大きく良くなっていく未来に向け、どのように担い手を育てていくのか、どのように持続可能な農業を作っていくのかがポイントになってくると思うので、一緒に考えていきたい。

会長

連携の話があったが、複数の集落法人の連合体というものがある。そのような形にできる・できないは別として、山口県の農業では、こういう成功事例がまだ少ないので、防府から成功事例を出していきたい。

また、スマート農機等については、現場で使ってもらえるような施策を講じていく。

J委員

畜産全般は、まだ餌が高く、以前に比べ利益は出てきていない。

酪農をしているが、円安の状態で、輸入牧草や海外の濃厚飼料を使っている。濃厚飼料を使うのは、牛乳の風味を良くするためと、農家の経営を安定させるためで、昔から同じ。共販として出荷しているが、出荷先で決められた成分値をクリアしないとペナルティもあるので、なかなか改革は難しい。ただし、餌の価格がコロナ禍以降、高騰しているので、これを打破するため、市内の営農法人と連携して、地元産の飼料（稲のWCS）を使って軽減している。しかし、WCSは運搬作業が大変で、業者に頼むとかなりの費用がかかり、

	経営を圧迫する。自分が作業をすると、その間は何もできず、仕事が終わらない状況。アルバイトの雇用も検討している。
会長	酪農は休むことができない仕事。酪農ヘルパー等もあるが人手不足で大変ではないかと思う。参考にさせていただく。
K委員	<p>仕事柄、県内外の人にリクルートをしている。最近は、最低賃金の上昇で、第一次産業よりも、第二次・第三次産業を希望する人が多い。</p> <p>そのような中、米の価格上昇で、県外にいる県内農家出身者の方から、山口県に帰り米を作りたいがどうしたらよいか、農家出身であっても米作りができるといった相談がよくある。三者協定の中で、担い手を育成し、市内の農業法人等に輩出するといった話があるが、しっかりPRして、市農業公社で技術を身に着け、認定農業者や営農法人等に就職できるといった循環ができるとよい。</p> <p>いずれにしても、県内外でしっかりとリクルートを行う。</p> <p>また、最近では「移住」から、結果的に農業に携わるような仕組みも出てくるのでは感じている。</p>
会長	東京のふるさと回帰センターでも、漠然と農業をやりたいと来られる。防府市では国や山口県の新規就農者施策に上乗せし、支援を充実させている。農業大学校があるため、住んでいるところで研修できるのは、大きな売りだと思う。何年間か学んでいただき、営農法人等で働いて、そして将来、自立したい方には、自立していただける体制が取れれば良い。
L委員	<p>私どもは、長い間地産地消に取り組んでおり、ほとんどの店舗で産直コーナーを作つて販売している。一番大きな課題が、周年を通じて売り場が安定しないということである。旬を欠くかと思うが、しっかり商品を作つて出していただきて、我々の売り場を販路として活用していただきたい。地産地消は成長カテゴリーなので、これからも強力に推進していきたい。</p> <p>要望になるが、今、地物の野菜を中心に、防府の市場を利用している。市場が移転し、水産市場と一緒にになって、農水サービスの拠点となるということを非常に評価しているが、スペース的な問題で、今よりもスケールが小さくなること。店舗分の荷を捌くスペースがあるのか、冷蔵設備等が充実しているのかなど、設計には、私どもの意見を取り入れてもらえたたらと思う。</p>
会長	冷蔵設備等、皆様の御意見を聞きながら進めている。また、意見をうかがわせていただき、皆さんとて喜んでいただけるものになるよう進めていく。
M委員	2050年の森づくりプロジェクトや、佐波川流域のきずな、森と水と人づくりフェ

ア等のイベントに、協力、参加させていただいた。

私も10月25日に行われた伐採見学会に参加した。参加された方に、作業工程の流れを見ていただき、少しでも林業に興味を持たれたことを嬉しく感じる。

大平山山頂の公園遊具にも、3年計画で大平山の木材を使用され、複数の公共施設等にベンチ等の設置も行われるということで、木材利用を積極的に推進されておられることに対して林業に関わるものとして感謝する。

今後も普及啓発等を継続して行っていただきたい。

会長 令和6年度から3か年ということで、来年のゴールデンウィークには全て完成する。大平山を、カーボンニュートラルのシンボルにしたいと考えている。これからも、大平山の木で毎年遊具を作りたい。

森林贈与税というPRのための財源もある。しっかりとPRをすることで、多くの方に大平山にきていただけるのではないかと思っている。

2050年の森を一緒になって盛り上げていただければと思う。

N委員 園芸療法を用いた農福連携に興味を持っている。どのような団体が農福連携をされているのかお尋ねしたい。今、自分が作っているサフランを、防府市や山口県全体に広めて、農福連携に使えたと思う。

東北の方で、サフランを使って農福連携をされているところがある。サフランは、金より高いといわれていた香辛料で、めしぶきを取る作業は、とても楽にできる作業。これを農福連携に使いたいと思っている。

B委員 農福連携については、生産者の方から相談を受けて、それを福祉事業所に依頼する。どのような作業内容か、できるかどうかなど、話しながら進めていく。まずは一度御相談いただきたい。

会長 貴重な御意見をいただいた。

来年度当初予算は、次の総合計画の初年度となるので、高い目標を作って、それを実現するよう頑張っていきたいので、御指導いただきたい。

閉会